

気のゆみをなくして



生活リズムを
変えないのが大事

生活のリズムを大切に 徹底の徹底の徹底!

3学期!「1月は行つた、2月は逃げた、3月は去つた」と言われるくらい、加速度的に過ぎ去つていきます。
2学期末の学校・学級経営の反省をもとに、3学期も具体的な取り組み(どんなことを、いつまでに、どの程度までするか)と、その見取りをしていきます。家庭や地域のみなさんのご協力をお願いいたします。

1. 国小、3つの徹底

教室の環境

- (1) 換気・・・休み時間は、全ての窓を開ける。
- (2) 3密の回避・児童間の机をできるだけ離す。
- (3) 消毒の徹底・手すり・ドアノブをはじめとして各教室に設置している大型空気清浄機(兼加湿器)の作動

子どもへの指導

- (1) 授業中は、必ずマスクを着用させる。
- (2) 給食時間は、必ず無言
- (3) 特に給食前の手洗いとうがいの徹底
- (4) 热があるときや体調が悪いときは登校しない。

(5) コロナ差別に関する指導

【想定される事案(例)】※国東小の子どもたちには

熱を出して保健室に行つた友だち、欠席した友だちに対する中傷

〇〇が陽性だったといううわさ・・・友だちを避ける。うわさする。偏見・・・。

※これらの事案が起きないように事前に指導

13日の始業式の日に、全学級で指導しました。



国東半島書初め大会

【特別賞】

■国東半島あいルネサンス連盟

会長賞(条幅)

・4年 今富 羽琉

■国東市教育長賞(硬筆)

・1年 竹田津 弥冬

【金賞】(半紙)

・3年 山本 美羽

【銀賞】(硬筆)

・2年 上野 遥

・6年 豊田 浩子

【銅賞】

(硬筆)・3年 松本 一鴻

・6年 有松 菜月

(半紙)・4年 鶴田 菜穂

あくびどう



うれしいなあ!
~3年に稲葉 美玖さん転入~

3年に新しく女の子のお友だちが増えました。千葉県のみどりが丘小学校から稲葉 美玖さんが国東小へ。仲良くしましょうね!

3月の終わりは
こうなっていい

子どもたちには夢や目標を持って毎日を過ごしてほしいと思います。3月の終業式(6年生は卒業式)の頃には「自分はどうなっていいか」を決め、そのために「いつから、何を、いつまでにするのか」を考えほしいと思います。

おめでとうございます!

一岡野 陽子先生

~文部科学大臣優秀教職員表彰~

今年度、大分県から表彰者として岡野教諭が選ばされました。特に算数の指導において、顕著な功績が認められたことによるものです。おめでとうございます!

学校だより 国東小学校 文責 校長 織永敏明

おとづれ

かけてあげる。自分だったら、こんなふうに言つてほしいという言葉を友だちに言つてあげる。

2. 学校の到達目標達成に向けて

「学校と家庭が連携して子どもの自尊感情を高めます」

(1) 身につける

- ①知識・・単元テスト1～2年 80点以上、3～6年70点以上 81% 【2学期末結果93%】

- ②睡眠時間8時間以上 70%以上 【2学期末結果92%】

(2) つながりあう

- ①つきつき言葉の使用・・児童アンケート94%以上

- ※友だちにとつてうれしい言葉【2学期末結果94%】

- ②自分にはよいところがある・・児童アンケート80%以上

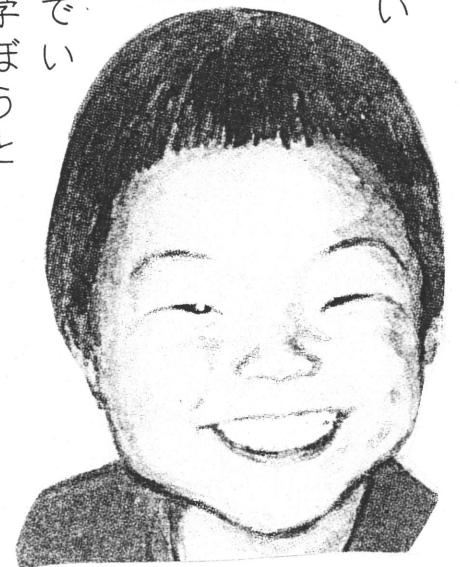
【2学期末結果84%】

- ③友だちのよいところみつけ・・児童アンケート80%以上

【2学期末83%】

3. いじめゼロに向けて

*毎月実施する「いじめアンケート」の結果等(子どもとの対話や子どもの観察)を受け、課題発生後の解消率を3月末までに100%にある。



考えるととは?

「同じ勉強をしていて、なぜ差がつくのか?」という本があります。その中に、「学び方の3つのパターン」というものがあります。①学んでいます。②授業中・仕事中だけしか学ばない人、③寝ているとき以外、日常すべてが学びになつている人です。

③の人が飛びぬけてできる人ですが、常に机に向かって勉強しているということではあります。そのたちは、日常の中で一つひとつ的事象に対しても「なぜだろう」という疑問を持っています。「どうすればいいんだろう」という解決策を考えている。これはほんの一部ですが、常に考えているということですね。大人から「どうしてだろうね?」「どうしたらいいと思う?」と問いかけたり、子どもの「なぜ?」という疑問をいつしょに考えたりするとよいそうです。

「知らんなあ。」とか「今いそがしいから後で!」「自分で調べよ!」で終わらせないことが大切のようですね。

正月 武蔵東小での 書き初め大会の思い出 糸永 敏明(国小校長)



鬼し出

あれは、私が小学校4年生のときのことだったでしょうか。初めて、武蔵東小学校での書き初め大会に参加しました。書いた字は、「初日の出」。当時、東小の講堂はすきま風が入ってきて、とても寒かつた記憶があります。紙は、現在の条幅の紙よりも一回り大きく、大筆で書きました。あまり練習もせずに参加。作品を提出した後、審査の時間があり、しばらくすると講堂に入賞作品がずらりと貼られました。講堂の内側を一周するくらい、そして窓を全ておおいつくすくらいう何段にも貼られていました。金賞は、金色の紙、銀賞は銀色の紙、そして銅賞は赤い紙が作品の右上に貼られていました。

特別賞には、ひときわ大きい金色の紙が貼られ、その紙には毛筆で「武蔵町長賞」などと書かれていて、うらやましく、そしてまぶしく見えました。ところが、自分の学年の箇所を何度も何度も探すのですが、自分の作品は見つからないのです。入選しなかつた作品は貼られなかつたのです。そのときのショックは、約50年たつた今でもはっきりと覚えています。

「帰ろう」と心の中でつぶやき、武蔵西小学校近くの家に向かつて歩き始めました。時折、雪が降る寒風の中、舗装されていない道を5キロくらいトボトボと歩いて帰りました。こごえて家に帰りつくと、父が驚いて「敏明! どげして(どうやつて)帰つてきたんか!」と、叫んだことが心に残っています。

今年の冬は先日のように大雪の日がありました。が、当時、書き初め大会といえば、決まって雪が降り、こごえる手に息を吹きかけながら温めて書いたものです。参加者も多く、東国東郡一円から400人以上は参加していました。あれから半世紀近くたちますが、縁あって武蔵東小の校長として勤務し、昨年の閉校の年に当時のことを懐かしく思い出しました。

書道の方は、50歳頃から牧泰濤先生のご指導を受け、現在でも泰濤書道塾の末席を汚しています。今年こそは、県美術展書道の部に挑戦しようと思っています。